



臨床医療英語教育の充実をめざして

今回の医師国家試験の必修問題に英語の問題が 3 題出題されました。解剖の部位を示す単語、oral vaccine を使用する疾患名、上方、側方、末梢、前方、近位の形容詞を問う問題で、いずれも日常的に用いられる頻度の高い基本単語の知識が必要であることを示しています。本学でも、以前から医療英語の必要性が議論され続けてきましたが、大学として本格的に対策を講じる時期がきています。先日、PBL の症例の一部を英語にする、病名の表記を日本語・英語とするなど、実施可能のことから医療英語に触れる機会を多く作っていくことが合意されました。ともあれ、語学は学生個人の地道な努力に負うところが大きいことはいまでもありません。学びたい学生は、どの先生方に相談しても将来役に立つ英語の勉強方法など、先生方の経験から貴重なアドバイスをしていただきたいと思います。是非、機会を作り積極的に挑戦することが望まれます。

また、日本全体としても医学における英語の重要性が認識され、日本医学英語教育学会が医学英語検定試験を実施しています。詳しいことは医英検HPを参照して下さい。

(池田豊子)

医師国家試験結果を受けて

去る 3 月 29 日に、第 103 回医師国家試験の合格発表が行われました。佐賀大学は 86.9% (受検者 107 名中合格者 93 名) と、極めて残念な結果となりました。なかでも新卒者に多数の不合格者が出たことをしっかりと受け止め、改善に取り組んでゆかねばならなりません。

国家試験の傾向として、基礎的な知識の理解 (記憶でなく) と臨床的な思考・技能がより求められるものとなっています。これは医師国家試験合格者の質保証という点では望ましい改善ですが、過去問を数年分準備していれば合格できるような試験ではなくなったということですから、受験者にとっては準備がより大変になっているということでもあります。

本学の不合格者の傾向をみると、共用試験 CBT での成績不振者が不合格ないしぎりぎりでの合格となっています。つまり、4 年次までに基礎医学・臨床医学の基礎的な理解を固めておかなければ、臨床実習に出ても実力は伸びないということです。実習は学んだことの実例を見て、具体的なイメージを描き、断片的だった知識がつながって系

統的な理解へと深めるための学びですが、基盤となる知識が不十分では多くを学ぶことはできません。また、現場で鍛えた臨床的思考や臨床技能でなければ、様々な角度から問われる国家試験にも対応できません。

これらの要素を一つ一つ点検し、教員と学生が一緒になって教育の改善に反映させてゆかねばならないと思います。

(小田康友)

保健師、助産師、看護師国家試験の合格発表について

平成 21 年 2 月に実施された保健師、助産師、看護師国家試験の合格者が 3 月 26 日に発表されました。合格発表の結果は [表 1] の通りで、本学受験者の各国家試験の合格率は、新卒者だけでなく既卒者を含めても全国平均を上回っており、保健師と助産師は全員合格でした。

[表 1] 保健師、助産師、看護師国家試験の合格発表の結果

		受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
第 95 回 保健師	本学	71/77(既卒含)	71/77(既卒含)	100/100
	全国	12,049	11,773	97.7
第 92 回 助産師	本学	2	2	100
	全国	1,742	1,741	99.9
第 98 回 看護師	本学	61/62(既卒含)	60/61(既卒含)	98.4/98.4
	全国	50,906	45,784	89.9

看護師で不合格者が 1 名出たのは残念でしたが、看護師国家試験は必修問題及び一般問題が、30 点満点のうち 24 点以上、状況設定問題が 270 点満点のうち 174 点以上で、この 2 の両基準を満たしてないと合格できません。必修問題は 8 割、総得点は 7 割の正答が課せられるため、万全の準備をして国家試験に臨む必要があります。また、免許の交付に際して、罰金以上の刑を受けた者は申請時に報告する義務がありますので、交通事故や違反は要注意です。

(藤田君支)

教育広報部会

小田康友、池田豊子、市場正良、吉田和代、江村正、藤田君支、田崎法人
ご意見をお待ちしています (oday@cc.saga-u.ac.jp)

